

第9章

「ベアテ・シロタ・ゴードン展～日本国憲法に 男女平等の思いを込めて～」と今後の展開

森 未知

1 はじめに

国立女性教育会館（以下、NWEC）の女性アーカイブセンターは2008年6月に開設され、昨年10周年を迎えた。本館1階にある展示室では次ページの通り、各年度、NWEC所蔵資料を紹介する所蔵展示と、テーマを定め、関係各機関から史資料を借用して行う企画展示を年に1回ずつ行っている。

所蔵展示は初期には比較的大きなコレクションの、稲取婦人学級資料、全国婦人新聞社取材写真コレクション、奥むめおコレクションからの資料紹介が主であったが、2013年の和田典子資料を中心とした「家庭科男女必修から20年」からテーマを持たせ、次の「喜美子さんちの家計簿」では、タイトルをつけて、新たに受け入れた資料の紹介を行うようになった。今回の「ベアテ・シロタ・ゴードン展～日本国憲法に男女平等の思いを込めて～」は、この新たに受け入れた資料の紹介の流れをくむものである。

本稿ではベアテ・シロタ・ゴードンについて、資料寄贈の経緯、資料紹介と展示について、そして今後の展開を報告する。

表1 女性アーカイブセンター 展示一覧

	企画展示	所蔵展示
2019	女性と医学展～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 令和元年11月12日（火）～令和2年4月15日（水）予定	ベアテ・シロタ・ゴードン展～日本国憲法に男女平等の思いを込めて～ 2019年4月26日（金）～2019年11月4日（月）
2018	鉄道と女性展 鉄道を動かし、社会を動かす～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 平成30年9月21日（金）～平成31年4月19日（金）	【特別展示】女性の歩みを受け継ぐ 女性アーカイブセンター10周年展 平成30年1月26日（金）～9月9日（日）
2017		【特別展示】国立女性教育会館開館40周年展 平成29年2月17日（金）～12月17日（日）
2016	寄席で演じる～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 平成28年8月1日（月）～12月18日（日）	男女雇用機会均等法から30年 平成28年1月15日（金）～7月24日（日）
2015	宇宙をめざす～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 平成27年7月31日（金）～12月20日（日）	喜美子さんの家計簿 平成27年2月3日（火）～7月24日（金）
2014	映画と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 平成26年8月1日（金）～12月21日（日）	家庭科の男女必修から20年関連資料ほか 平成25年12月19日（木）～平成26年7月24日（木）
2013	音楽と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 平成25年8月1日（木）～12月15日（日）	平成24年12月13日（木）～平成25年7月23日（火）
2012	建築と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 平成24年8月7日（火）～12月9日（日）	市川房枝生誕120年関連資料ほか 平成23年11月8日（火）～平成24年7月23日
2011	化学と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～ 平成23年8月29日（月）～11月6日（日）	平成23年3月3日（木）～8月21日（日）
2010	女性の実業教育のはじまり～チャレンジした女性たちへ～ 平成22年8月12日（木）～11月14日（日）	平成22年1月14日（木）～8月8日（日）
2009	女性科学者の誕生～チャレンジした女性たちへ～ 平成21年10月6日（火）～12月13日（日）	平成21年1月17日（土）～9月13日（日）
2008	女性の高等教育の黎明～チャレンジした女性たちへ～ 平成20年10月10日（金）～12月23日（火）	平成20年6月12日（木）開設～9月15日（月）

2 ベアテ・シロタ・ゴードンについて

ベアテ・シロタ・ゴードン（以下、講演で彼女を日本に招いた女性たちにならってベアテさんと記す）の生涯については、自伝『1945年のクリスマス：日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝』に詳しいが、どのような資料があるのかの前提として、簡単に紹介する。

子ども時代

ベアテさんは、世界的なピアニストであったレオ・シロタ（Leo Sirota, 1885-1965）と、その妻オーギュスティーヌ（Augustine, 1893-1985 本来の発音はアウグスティーネとの記載もある〔山本 2015:120〕）の間に、1923年ウィーンで生まれた。両親ともウクライナ出身のユダヤ系であった。レオは世界各地を演奏して回っており、1928年満州の中心都市ハルピンでの山田耕筈の熱心な誘いにより、日本に初来日した。日本でのコンサートは大盛況で、山田耕筈は音楽学校の教授の地位を提示し、翌年の半年間の再来日を願った。そのころ、ドイツは第一次世界大戦による多額の賠償金をかかえ、ヨーロッ



写真1 山田耕筈と一家



写真2 両親とピアノを囲んで

が経済が不安定になっており、コンサートは次々キャンセルとなった。このことが1929年夏、ベアテさんが5歳のときに、一家で日本への演奏旅行に出かけるきっかけとなった。半年間の予定で来日した一家であったが、同年10月世界大恐慌が起こり、1933年ナチスが政権を獲得、1939年第二次世界大戦が勃発と、ヨーロッパに帰れる状況ではなくなり、レオとオーギュスティヌは17年、ベアテさんは留学までの10年間を日本で暮らすことになる。

一家は乃木坂の西洋館に住み、ベアテさんは大森のドイツ学校に入学する。レオは東京音楽学校(現東京藝術大学)で教え、演奏会を精力的に開いた。オーギュスティヌもレオがまだ教えるには至らない生徒に、家でレッスンをしていた(その教え子にはオノ・ヨーコもいたという)。

乃木坂の家は、社交的で料理の上手なオーギュスティヌのおかげで、ヨーロッパからの来客が絶えなかった。また画家の梅原龍三郎など外国語のできる日本人芸術家もよく訪れた。一家とともに長く暮らしたお手伝いの小柴(後に沢辺)美代は梅原の紹介である。ベアテさんは日本人の友達から日本語を学び、来客や美代から、当時の無権利状態の日本の女性の状況を知った。1933年ナチスが政権を獲得すると、ドイツ学校でユダヤ系のベアテさんは居心地が悪くなり、1936年アメリカンスクールに転校する。ベアテさんは小さなころからアメリカ人ダンサーにモダン・ダンスを習っており、ダンサーとなることを夢見ていたが、母に才能がないと言われ、才能は語学にあることを示唆される。1939年15歳のベアテさんは、両親の故郷のロシア語、ウィーンとドイツ学校で身につけたドイツ語、家庭教師に教えられたフランス語、アメリカンスクールでの英語、そして日本語の5カ国語をマスターしていた。



写真3 踊るベアテさん(立姿)

II 実践の展開

アメリカへの留学

同年、アメリカンスクールを卒業したベアテさんは、日本から一番近いアメリカ西海岸サンフランシスコ近郊の女子大学、ミルズ・カレッジに留学する。

そこでさらにスペイン語もマスターした。1941年12月日米が開戦、仕送りが届かなくなり、自活をせざるを得なくなった。ここで語学の才能が役立ち、ベアテさんは東京からの短波放送を聞いて英語に翻訳するアルバイトに就く。18歳になるとアメリカ国籍を取得、1943年に働きながらミルズ・カレッジを最優秀で卒業した。そのころ米陸軍情報部（OWI, Office of War Information）の戦争を早く終結させるための日本人向け番組制作 Voice of America に携わる。1945年3月、ニューヨークに移り、タイム社で調査員の仕事に就く。当時、記者はすべて男性で、調査員はすべて女性、記事に間違いがあると調査員のミスになった。ベアテさんはここで自身の問題として、女性差別と向き合うことになる。

日本国憲法作成への関与

1945年8月、戦争が終わり、ベアテさんは日本に行ける仕事を探し、占領軍の民間人要員として外国経済局に志願し採用される。1945年12月24日、22歳のベアテさんは、連合国最高司令官総司令部（GHQ）民生局員として再来日、軽井沢に疎開していた両親と再会することができた。仕事は公職追放に関する調査であったが、1946年2月4日、GHQ民生局員から25人が集められ、最高機密として2月12日までに日本国憲法草案の作成を指示される。ベアテさんは人権に関する委員



写真4 貴族院本会議場で傍聴する民生局員

会の委員に入り、タイム社での経験を活かし、まず図書館へ向かい各国の憲法を集めた。そしてその中から役立つ条文を拾っていった。ベアテさんは現在知られている、日本国憲法第14条「法の下での平等」、第24条「家族関係における個人の尊厳と両性の平等」以外にも、女性の権利と教育を受ける権利の条項を多く起草したが、運営委員のケーデイス大佐によって憲法に記載するには細かすぎると削除された。2月12日に完成したGHQ案は、翌13日に日本政府に手渡される。日本政府は抵抗したが、最終的にはGHQ案を受け入れざるを得なくなり、3月6日憲法改正草案要綱として日本政府から発表された。1946年4月10日、女性の選挙権を認めた新選挙法のもとで衆議院総選挙が実施され、39人の女性が当選した。憲法は衆議院、貴族院での審議、修正を経て、1946年11月3日公布された。当日、貴族院本会議場で傍聴する民生局員の写真が残されている。また翌年、吉田茂首相から憲法草案に関わったGHQメンバーに銀杯が贈られた。

帰国、結婚、市川房枝の全米ツアーに同行

レオとオーギュステーヌはアメリカに移住することにし、1946年5月に出発した。1947年5月、ベアテさんはアメリカに帰国し、1948年1月、日本国憲法草案の通訳を通じて親しくなったジョセフ・ゴードンと結婚した。

1952年、ロックフェラー財団の援助で日米文化交流のための指導的人物の交換のため、市川房枝が渡米し、ベアテさんはその訪問先に通訳として同行することとなる。目的は大統領選挙運動を見ることと、アメリカの女性運動を視察することで、エレノア・ルーズベルトやアイゼンハワー大



写真5 行程表

II 実践の展開

統領らとの会見に同席した。ベアテさんの書き込みのある行程表や、毎晩書いていたメモが残されている。

芸術ディレクターとしての活動

1953年ジャパン・ソサエティで留学生のアドバイザーとして働き始める。翌1954年9月、長女ニコールを出産、1カ月後にはベビーシッターを雇い仕事に復帰した。1958年、ジャパン・ソサエティにパフォーミング・アーツ（舞台芸術）部門ができ、ベアテさんは35歳でその初代ディレクターに就任した。また同年、長男ジェフリーが生まれた。

パフォーミング・アーツ部門では、琴、狂言、生け花、茶道、板画等々、日本の伝統文化・芸術をアメリカで紹介することに力を注いだ。1960年からはアジア・ソサエティでも仕事を始め、アジア各国の民俗芸能を紹介することになった。1965年レオが死去し、一人になったオーギュスティーンをニューヨークに引き取ることになり、ベアテさんは話し相手として、沢辺美代に来てもらうことを思いつく。翌1956年、50歳の美代は初めは単身で、後には夫とともに1970年までの5年間をまたベアテさんと過ごした。仕事はさらに広範囲となり、1年のうち4～6週間、3カ国くらいを回り、紹介すべき伝統芸能を探し、交渉し、公演を行う。これらの功績により、1990年にはBessie賞、1991年にはミルズ・カレッジより名誉博士号が授与された。1991年67歳でアジア・ソサエティを退職、顧問となるが1993年に顧問も辞した。

日本各地での講演活動

ベアテさんはトップ・シークレットであった日本国憲法草案に関わったことについて、退職するまではほとんど語らなかつた。1993年にケーディスとともに来日し、そのころから積極的に講演、インタビュー、テレビの取材にも応じるようになる。これは時間的余裕ができたこと、ケーディスらが高齢となり、平和や女性の権利について理想を込めた日本国憲法の良さを伝え

たいとの思いからであった。

全国各地の女性たちは、ベアテさんを日本に招く実行委員会や、憲法と男女平等を学ぶネットワークを立ち上げて、ベアテさんの講演会を開催した。講演会は報告書等にまとめられたものも多く、函館、釧路、苫小牧、山形、清瀬、新潟、富山、津、広島、山口、高知等、各地のものが女性教育情報センターに所蔵されている。また講演会

の様子を伝える新聞記事も多数ある。富山県高岡市の「ベアテさんの会」は、1999年の講演会から20年、現在も憲法学習、活動を続けている。また愛知を中心とした「ベアテさんを語る会」は、ベアテさんがマスターしている6カ国語で24条が書かれたスカーフを映画作成の資金集めに作り、「ベアテの贈りもの」へとつながった。

1998年には劇団・青年劇場がジェームス三木脚本・演出で、GHQの日本国憲法草案作成の9日間を題材とした『真珠の首飾り』を初演した。この劇には語り手としてのベアテさんと、22歳の作成当時の2人のベアテさんが登場する。ベアテさんは同年4月29日に観劇、カーテンコールで2人のベアテさんとともに舞台上上がった写真がある。この劇は2005年まで全国を巡演、2015年にも再演されている。

ベアテさんは、2012年8月に亡くなった夫ジョセフを追うように、12月30日、89歳で亡くなった。2008年までは毎年来日しており、その後も電話等でのインタビューには応じていた。追悼の会がニューヨークや日本で開催され、長女のニコールさんが現在ではベアテさんの平和と女性の権利にかけける思いを伝えている。



写真6 苫小牧写真集

3 資料寄贈の経緯

ベアテさんの死後、残された資料は母校ミルズ・カレッジへ寄贈するというのが、ベアテさんの遺言であった。その一部が今回、女性アーカイブセンターに寄贈されたのには、ベアテさんを講演に招いた女性団体の力による。2016年、前述の愛知を中心とした「ベアテさんを語る会」メンバーでもある、あいち国際交流はなのき会は、ベアテさんの残した資料がミルズ・カレッジに寄贈されたことを知り、研修旅行で大学を訪問した。訪問したメンバーらは、日本語のものはアメリカにあるより日本にある方が活用されるのではないかと受け入れ先を探すことにした。はなのき会はNWECと交流があり、2017年秋、NWECの女性アーカイブセンターに所蔵できないかという働きかけがあり検討が始まった。その時点でベアテさん資料は、ミルズ・カレッジに送られたもの以外に、まだニコールさんの元と、ベアテさん・ニコールさん双方の友人で、ニューヨーク在住の舞台芸術家・尾竹永子氏が預かっているものがあるという情報もいただき、尾竹氏に問合せをした。尾竹氏からNWECにベアテさんの日本語資料を寄贈することにニコールさんも前向きな意向との連絡を受け、尾竹氏が預かっている資料を会館に送り、尾竹氏の一時帰国時に確認を行った。2018年1月末、アーカイブセンター資料選定委員会で、ベアテ資料群の受入について以下の通り、大まかな基準の上での合意がなされる。

- 1 日本国憲法草案に関連する資料
- 2 ベアテさんが日本で講演を行った際に、各地で作成された日本の女性たちの学びの記録
- 3 付随して、ベアテさんの背景を理解するためのサポート資料

これを受け、ミルズ・カレッジの資料についても、ニコールさんとの寄贈の覚書の取り交わし前だったこともあり、NWECへの寄贈を検討いただけることとなった。その後、メールや尾竹氏の一時帰国の際の打合せ、NWEC

客員研究員青木玲子氏の訪米を経て、上記、日本国憲法草案に関する資料、ベアテさん講演関係資料、そして日本に関するものとして、1952年市川房枝のアメリカ訪問時の資料がNWECに寄贈されることとなった。

またこのベアテさんが直接残した資料以外に、関連資料として、ベアテさんの映像資料を多数制作したドキュメンタリー工房（現在はドキュメンタリー新社に移行）の資料、ベアテさんを招いた女性団体からの資料、友人所蔵資料などが集まってきている。

4 寄贈資料の概略

憲法草案関係

憲法草案関係については40点ほどあるが、既に国立国会図書館憲政資料室等で保存されているものが大半で、残念ながら目新しいものはない。1点、1946年3月6日に発表された憲法改正草案要綱をローマ字タイプ打ちしたものは、日本語を流暢に話したが、読み書きは不得手であったベアテさんが自分のためにローマ字で打ったものであろうと推測され、他にはない資料と考えられる。

1952年市川房枝全米ツアー関連

1952年市川房枝全米ツアー関連に関しては50点ほどあり、行程表、訪問先とのやり取り、手書きのメモ、新聞記事などである。

日本各地での講演関連資料等

日本各地での講演関係資料としては、写真200点ほど、新聞記事・雑誌記事70点ほど、その他の文書



写真7 報告書

II 実践の展開

として、パンフレット、チラシ、プログラムといったものが150点ほどある。これにはローマ字タイプ打ちされた講演原稿や、講演会を聞いた方の感想、憲法24条の方言訳といったアーカイブならではの資料が含まれる。

ドキュメンタリー工房関連資料

ドキュメンタリー工房からは、ベアテさん関連の映像資料「私は男女平等を憲法に書いた」、「ベアテのニッポンだいすきアジア大好き！」の素材映像と、同社の平岡磨紀子氏が『1945年のクリスマス』作成に使った写真や文書150点ほどがある。

その他の整理中資料

尾竹氏に預けられていた資料250点ほどは現在整理を進めている。写真が180点ほどを占め、残りは市川房枝全米ツアー行程表、新聞記事、講演プログラム、若干の書簡など、年代も多岐に渡っている。

5 所蔵展示「ベアテ・シロタ・ゴードン展」について

展示は、ニコールさん、尾竹氏ら関係者とNWEC担当者が連絡を取り合う中で企画され、2019年の憲法記念日5月3日前に始めよう、ということになった。また長女ニコールさんの特別講演を、毎年8月末に開催しているNWECの最も大規模な事業である男女共同参画推進フォーラムで行うこととなった。これらから日程は、今年度、新天皇即位のため4月27日（土）から5月6日（月）までが10連休となったことから4月26日（金）に開始し、フォーラム終了後9月30日（月）までとした。

展示の内容は、資料とパネルからベアテさんの生涯を振り返るとともに、戦前から現在に至る男女共同参画社会の形成について考える機会を提供するものである。

パネルは理事長挨拶を除き、以下の9枚を作成した。

- 1 ベアテ・シロタ・ゴードンさん年譜
- 2 両親とともにウィーンから日本へ～ベアテさんの子ども時代～
- 3 レオ・シロタの弟子 藤田晴子さん～東京帝国大学の女子第1期生～
- 4 ミルズ・カレッジに入学～東京からアメリカ・サンフランシスコへ～
- 5 GHQ民生局員として来日～日本国憲法草案作成に携わる～
- 6 日本国憲法成立の過程
- 7 市川房枝さんの全米ツアーに同行～アメリカ大統領との会見も～
- 8 芸術ディレクターとしての活動～アメリカでアジアの芸術家を支援～
- 9 日本各地での講演活動～女性たちの憲法学習～

これらのパネルに、ニコールさんから借用したもの、今回寄贈された資料、そして女性教育情報センターの所蔵資料などを組み合わせた。もっとも大きなハイケースは毎回何を展示してアピールするか、頭を悩ませる空間であるが、今回は右側にパネル「日本国憲法成立の過程」と、前述のローマ字草案を含む憲法草案関係資料、左側には1998年にベアテさんが受賞した勲四等瑞宝章の表彰状と勲章、24条のスカーフ、バンダナ、吉田茂首相から贈られた銀杯などを配置した。

展示室内のテーブルには憲法学習コーナーを設け、すでにデジタル化されインターネットで提供されている、カットされたベアテさんの草案、日本語になっ



写真8 ハイケース



写真9 ベアテさんへのメッセージ

II 実践の展開

た憲法草案、最終的な日本国憲法、新しい憲法の話などの複製資料を手にとってみられるようにした。ベアテさんへのメッセージを付箋に書いてもらうようにしたところ、たくさんの熱心なメッセージが寄せられた。

展示室内と、展示室外から見ることのできるモニター2台では、映像資料「私は男女平等を憲法に書いた」、「ベアテのニッポンだいすきアジア大好き!」、「ベアテの贈りもの」を上映し、椅子に座ってじっくり見る見学者が多かった。

また7月25日から10月14日までの間、フリー刺繍作家、天野寛子氏による憲法前文・第九条の刺繍、そしてこの展示のために制作いただいた第24条の刺繍の展示を行うことができた。

9月末までの入場者は8,000人を超えた。特にニコールさんの特別講演のあったフォーラム期間中は延べ約2,000人が入場し、例年1万人程度の入場者である小さな展示室としては大変好評なため、展示期間を11月4日（月・祝）まで延長することとなった。

6 今後の展開

受入作業が済んだ資料は、目録作業とデジタル化を進め「資料群40ベアテ・シロタ・ゴードン資料」として、女性デジタルアーカイブシステムで提供する予定である。デジタル化に関しては、図書館振興財団より助成金を得ており、著作権、肖像権等に問題がないものに関しては、画像データで本システム上から利用できるようになる。

ミルズ・カレッジの所蔵資料は、2019年6月から目録を公開、9月にはオンライン展示が始まった。

https://exene.mills.edu/exhibits/exhibits/show/beate_sirota_gordon

2020年1月にミルズ・カレッジのアーカイブ担当者が来日して、NWECとの情報交換を行った。今後インターネット上での連携により、ベアテさんの日本国憲法への女性の権利が入ったことの功績について、また1990年代

以降の平和と女性の権利を訴えた講演活動について、学ぶことができるようになるのではないかと考えている。

展示パネルについては、NWECCのリポジトリへ搭載する。本体の貸出希望もいただいております、日本各地で活用していただきたい。

引用文献

- ベアテ・シロタ・ゴードン・平岡磨紀子 1995『1945年のクリスマス：日本国憲法に「男女平等」を書いた女性の自伝』柏書房
山本尚志 2015「ピアニスト レオ・シロタ没後半世紀：シロタに関する若干の新史料と考察」『学習院高等科紀要』第13号：105-131 学習院高等科

参考文献

- ナスリーン・アジミ、ミッシェル・ワッセルマン著・小泉直子訳 2014『ベアテ・シロタと日本国憲法：父と娘の物語』岩波書店
土井たか子、ベアテ・シロタ・ゴードン 1996『憲法に男女平等起草秘話』岩波書店
スーザン・J・ファー 1987「女性の権利をめぐる政治」『日本占領の研究』東京大学出版会
鈴木昭典 1995『日本国憲法を生んだ密室の九日間』創元社
山下清子 2019「活動情報 ベアテさんの会（富山県）」『月刊 We learn』789

参考資料

- ドキュメンタリー工房 [200-]『私は男女平等を憲法に書いた』ドキュメンタリー工房
ドキュメンタリー工房 [19-]『ベアテのニッポンだいすきアジア大好き!』ドキュメンタリー工房
国立国会図書館 電子展示会「日本国憲法の誕生」
<https://www.ndl.go.jp/constitution/>

(もり・みち 国立女性教育会館情報課専門職員)

Ⅲ NWECC 実践報告
